

神奈川 山梨教会連合会報

かりん

あれもおかげ、これもおかげ

☆高橋正登さんは、昭和二十年に大分県蒲江町にて、五歳年上の兄・高橋正一さんと一歳で亡くなれた妹さんの三人兄弟の二男として出生されました。お母さんが蒲江教会で信心をしていて、正登さんも母に連れられて、月に数回参拝していたそうです。小学校一年生の頃に大阪へ、それから二・三年後に横浜市鶴見区小野町へ引っ越し、後に生麦教会にご縁を頂かれました。

☆昨年は、事故に遭われて大変でしたね。「事故は大変だったけど、後から考えると、あれもおかげだったんだなーと思うよ」。

昨年五月十日、連合会副会長の吉田さんから、「新刊の『金光大神』を読んでの講演会をさせて頂くのだけど、正登さんパネラーになってくれないか？」と言われてたのだけど、俺は本とか読むの苦手だし、だいたい仕事が忙しくて読む暇がなかったのね。もし引き受けるなら、ちゃんと本を読まないといけないけど、その時の状況では

難しそうで。だから、一時期は断わりうと思ってた。

で、声をかけてもらった日から一週間後の十七日、事故に遭って。あばらの骨が折れて、本当なら入院する位の怪我だったそ

うですが、おかげを頂いて二カ月の自宅療養で済んだ。

でもね、療養していて、ふと「あ、これで『金光

川でスベって山でコロんで……とってきました

Interview

第11回 高橋正登さん (生麦教会)



大神』の本が読める！」って気が付いて。それから本を読ませてもらって、自分なりにまとめると、その時間のおかげで、無

事講演会のパネラーの御用が勤まったと思う。事故が無かったら、出来なかったかもしれない。後から思うと、金光様が吉田さんを通しておかげを下さったのだと感じた。

☆事故は大変でしたが、良かったですね。「自分たちは、日々生活することで一生懸

命で、それしか考えてないが、本当は金光様や教会の先生に日々願われて生きていて言うことを実感し、金光様や先生と繋がっているように感じて有り難いと思った。しかし、これが五年・十年前なら、このおかげに気付いていなかったかもしれない」。

☆おかげを受けることは、その時の自分の心情などで違ってくると思うことでしょうか。

「私が考えるに、先生や金光様にお取次したことのおかげは、神様が必ず「くれる」と思うんだけど。ただ、どんなおかげをいつ何時頂くは解らない。沢山おかげを頂いていても、気が付かないことが多いのだと思う。」

よく、生麦の先代先生(今村可乃師)が『あれもおかげ、これもおかげ』と言われてたが、最近になってやっと意味が解ってきたように思う。おかげが解る自分にならせて下さい。と今は願っている」。

☆最後に、信徒会での今後の抱負がありましたら。

「今までの経験を生かし、後輩の信者さんへの指導や、教師と信者の間を埋める掛け橋の御用をさせて頂きたい」。

☆ありがとうございます。(今村則子)

これからの教会連合会について

各教会の天地金乃神大祭が奉祀され、続いて本部教団独立記念祭参拝のおかげを蒙られたことと存じます。

さて、基本方針に基づいて、これからの教会連合会についての考える事柄、目的は何かと云うことですが、今年の内容は「金光大神の信心を今の世に生き生きと求め現す。そして、活動方針に信奉者の交流及び教会活動の充実を図る。他連合会との連帯を図り首都圏布教を推進する」、どれも欠かせない重要なことであります。

天地自然の働きから、身近なところでのさまざまな出来事まで、いっさいのことを人間のいのち、すべてのいのちを育み生かす神様の働きとして実感し、その働きに対する感謝の心が信心であることを話していかなければなりません。

天地金乃神様、生神金光大神様のご内容とそのお働きを一人でも多くの人に間違いなく伝えさせていただくことが願われます。信奉者らのかかわり合いの広がりは、人を助ける場が広がっているのだと考えます。

これからの教会連合会活動はやはり、金光教や生神金光大神、天地金乃神様の存在を伝えることが第一であり、さまざまなメディアや出版書籍によって本教を知ってもらうことが入信機縁となっているのではな

いか。

葬儀などの儀式に触れて入信されたり、信奉者そして青少年の育成活動や、社会奉仕活動の参加なども不可欠なことです。

神様のお喜びは、人間が一人でも多く立ち行き、助かることなのです。神様のありがたいことを人に伝えて、人を信心におみちびきすることこそ、神様への真のお礼になる、と教えています。

個人的には熱心な信奉者が、未信の方をお手引きされて参拝されることは大事なことでありますが、しかし、続くということとは種々の問題を克服してのことでもあります。それは先ず、教師の在り方、教会の雰囲気、人とのかかわり、またその人の心の平癒などです。

そして、親からの信心を継承し続いている入信は大切なことであります。信奉者の高齢化の問題、それからのお繰り合わせを頂かなければなりません。

これからも以上のようなことを、より考えながら教会と信奉者が一体となって意識を高め、努力していかなければなりません。

「日々の改まりに真心と感謝の気持ちをお忘れず、わが心の神様の働きを日常の信心生活の上に少しでも現わさしめ給い。」と祈願させていただいております。

よろしくお願い申し上げます。

(金光教野毛教会長 鈴木 重光)

行動半径を広げよう

一人暮らしの高齢者に昼食を差し上げる、というボランティアサークルに加入して二十年近くになります。一人で作るには面倒なもの、栄養的にバランスが取れたもの、見た目にも美しい幕の内弁当を用意して、地域のケアプラザで召し上がって頂くという、いわゆる会食サービスをしています。

その他にも食事を自宅まで配るといふ、配食サービスというのもあります。高齢の方々が会場まで出かけてくるのは、大変なので、自宅で待っていれば届けてくれる配食は、なかなか有難いサービスです。

でも、会食にも実は重要な意味があるのです。出かけるには、お化粧をしたり、洋服を着替えたりすることはもちろん、普段は使わないようなイヤリングをつけて出かけるなど、身の回りに気を配ります。そのことで、若さを保つことができるのです。

それから、会場に出かけてくれば、仲間がいます。二十年も続いているので、仲良しグループができていて、あちこちで話の輪が広がり、お喋りの花が咲きます。同じお弁当でも一人でテレビを相手に、黙って食べるよりは、仲間と語りながらの食事の方がおいしいに決っています。私はこれを孤食からの解放と呼んで、「会食」の重要なポイントだと考えています。

事業企画運営委員会開催

六月六日(月)県民センターにて、連合会事業企画運営委員会(九名出席)が開催され、諸行事の報告、部会活動の報告が行われた。教師部会の開催

○四月十四日、野毛教会(十二名出席)に於いて第二回教師部会が開催され、木本紀義師(横須賀)より『家族』をテーマに(現代社会問題)調査研究会報告『家族を考える』を資料として、夫婦の配偶関係や親子・兄弟などの血縁関係によって結ばれた親族関係の小集団を家族という前提で問題提起が行われた。

○六月十四日、小田原教会(十名出席)に於いて第三回教師部会が開催され、奥川美智雄師(平塚)より『金光教にみる家族(家庭)観』をテーマに(神と人共に生きる信心と生活編下巻)を資料として、家庭教育は「育てる教育」、学校教育は「教える教育」、金光教の中では、「神心を育む。神心をもって育てる」ということを踏まえて問題提起が行われた。

○教会家庭婦人の会では、二月十一日開催された「教区婦人の集い」に参加。七月四日開催(鎌倉教会)される、連合会主催「女性のつどい」に参加する。

布教部会

○教会の枠を超えて、ミニ公開講演会的要素を含めた集会を立案し、教会の活性化を図るための準備を進めて参りたい。

○社会活動については、三月二日平塚教会に於いて担当者(奥川美登子・吉田章一郎)が協議し、災害救援活動に関しては、速やかに動けるように進めて参りたい。

○各教会の活動、地域での社会奉仕活動について、アンケート調査の実施を行う。その他、他面に亘り懇談を行った。

育成部会

○七月四日(月)、「女性のつどい」でおしぼな教室が開催されるので、ご協力をお願いしたい。

○八月二十日出、「親子のつどい」として「地引網」を二宮海岸で予定している。

信徒部

○七月十八日(日)神奈川県民センターに於いて信徒部主催により、「教師・信徒懇談会」を開催する。『金光教の活性化を求めて』金光教を考える会の基調報告を受けて、「教会における信徒の役割と連合会」、「教師の指導力・魅力」について各教会から教師・信徒が参加して行われる。

○六月二十六日、役員会が開催された。おめでとうございます

○教団独立記念祭時、四十年受褒教師 今村 國広師(生麦)

新任教師

高橋 健雄師(藤沢)

さて、^{ひらかえ}翻って教会への参拝を考える時、私は同じような意味づけを思うのです。教会に出かけるには、家に居るままの格好では出かけないでしょう。エプロンをはずし、口紅の一つも塗り、アクセサリーを付けたります。悩み事や辛い事、うれしい事、よかった事はお届けとして、先生にご報告したり、ご相談したりしますが、教会には仲間がいて、先生にお届けするほどではない愚痴を聞いてもらったり、冗談を言い合って笑ったりできるのです。時には教会の帰りに食事やお茶をしたり、御本部参拜とセットで旅行をしたり、と楽しいことも色々体験できます。とかく、高齢になると、行動半径が狭まり、出かけることが億劫になるのですが、教会と繋がりのある我々は幸せだなあと思います。しかも教会では、高齢者なりに何がしか御用があつて、何かの役に立てる、というのもうれしいことです。人は誰でも、他人の役に立っていると感じる時、喜びや充実感を見出すものだし、それが生き甲斐になって、いっそ元氣を取り戻すものです。

今年の「女性のつどい」は、七月四日(月)、鎌倉教会で、押し花を使った葉書を作ります。創作の喜びと新しいお友達を求めて、いらっしやいませんか? あなたの行動半径をいっそう広げましょう。

(神奈川県 大塚 東子)

教会連合会「女性のつどい」

押し花でハガキ作り教室



去る七月四日(月)、「女性のつどい」が鎌倉教会で行われ、二十六名の方が参加されました。今回は、吉岡裕子さん(鎌倉教会信徒・日本レミコ押し花学院講師)を講師に、押し花を

使ったハガキ作りに挑戦しました。

講師の吉岡さんは、県立大船フラワーセンターで見た押し花の作品に魅せられ、それからは野の草花に自然と目が向くようになり、自分も押し花をやりたいと興味が膨らんでいったそうです。そんな講師の思いを反映してか、当日の押し花素材には野の草花が多く用意され、ハガキを素材に彩りました。初めは「不器用だから」と遠慮勝にしていた参加者の皆さんも、時間が経つにつれ慣れてきたのか、個性的な作品を次々に生み出していきました。

「押し花は、仕事、生活と様々なに生かされて、楽しみや喜び、うるおいなど、多くのことをもたらしてくれている」と言う講師の言葉に後押しされ、この日一生懸命に作り上げた押し花ハガキは、もしかしたら、皆さんのお手元に届くかもしれませんね。

▼お知らせ▲

《連合会より》

親子のつどい ― 地引網で楽しい一日を―

・日時 八月二十日(土) 十時三十分～

十五時(十時から受付)

・場所 二宮 梅沢海岸 長屋丸

・参加費 一人 五〇〇円(20歳未満無料)

・申込み・問合せ *昼食は用意してあります

各教会に送付してあるチラシを参照の上

左記まで申込用紙でお申し込み下さい。

〒221-0002 横浜市神奈川区大口通一五―一

金光教子安教会 村田光治

TEL(〇四五)四二二―一九二七

FAX(〇四五)四〇二―二七三九

《東京センターより》

公開講座「こんこうセミナー2005年度

『金光大神の宗教運動と現代』

― 道なき道に道を切り開く ―

・日時 九月三日(土) (第三回)

午後二時～四時

・会場 金光教センタービル

三階 研修ホール

・講師 渡辺 順一氏

(元 金光教教学研究所部長)

・参加費 三〇〇円

〈な・が・れ〉

『妻を亡くして』

大明教会 中込悦朗

数年前、四十年連れ添った妻に先立たれました。急な病でした。思いがけない事態に呆然とした気持ちの中で、最も強い思いは妻が可哀相だという切ない気持ち、もっと長く生きて人生を楽しんでもらいたかったという思いで一杯でした。

しかし私の心の中で唯一の救いは、金光教の御教えを戒いでいることでした。

いつまでもクヨクヨせず、良いことを思い描いて元気な心で日々有り難く暮らすこと、考えてみると先ず健康であることから始まって、良いこと有り難いことも幾つかあります。これまでの人生を振り返ってみて、自分の至らなから数々の失敗をしピンチも招きました。それを乗り越えてこられたのは、大変な神様の御導きがあったことを有り難く気付かせてもらえたのです。これからの人生、妻の分も元気で生き抜かせて戴きますと、神様に誓っています。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 須賀院 明德

編集責任者 横山 光雄

川崎市中原区小杉御殿町二―八二

〒211-0008 金光教武蔵小杉教会内